

2023年度 Summer Abroad(UK) 海外短期研修レポート

英語英米文学科2年

私が海外短期研修イギリスに参加した目的は大きく分けて二つあります。

一つ目は、自分の英語力がどの程度現地で通用するのかを確かめてみたいという好奇心と、英語力の向上です。イギリスでの授業は今まで受けたことのないような授業ばかりでした。日本での授業では私を含め多くの方が、「間違えたくない」「話すことが怖い」と思うことがあると思います。現にイギリスに来ていた他大学の留学生も同じことを言っていました。しかし、イギリスでは「間違えること、知らないことは価値があるものだ」と教わります。それはまだまだ知識を取り入れる余地があるからです。私はこの言葉を聞いて積極的に話して間違えていこうと考えました。そこからの授業での発言や先生との会話、ホームステイ先での会話の時間はとても有意義なものでした。とにかく話してみる、間違えてみる、分からないなら聞いてみる、私たちはネイティブではないので、分からないことがあっても恥ずかしいことではないと考えを改めたことで、自分でも驚くほど積極的に行動することができたと思います。また、日本では英会話教室に通っていたこともあり、ある程度現地でも通用することがわかりました。しかし、イギリス英語はとてもリスニングすることが難しく、お店の店員さんやホストファミリーの英語を聞き取ることが難しかったという点もありました。

二つ目は現在書き進めている卒業論文の材料を集めたいというものでした。私はイギリス芸術、主に絵画や詩について研究しているため、イギリスに行った際には多くの美術館に足を運び、芸術文化を肌身で感じたいと考えていました。休日にロンドンに足を運び、大英博物館やナショナル・ギャラリーなどに行き何時間もかけ鑑賞しました。イギリスは日本とは異なり多くの美術館が無料で開放されています。これはすべての人が平等に学ぶことができるようにという想いからくるものです。私が一番驚いたことは、先生方はもちろんホストファミリーの夫婦、そして彼らの息子である 10 歳の男の子でさえ多くの芸術家の名前や作品を知っており、芸術に関する知識が豊富であるということです。カンタベリーにも美術館があり、子どもたちは学校帰りに寄ってくることもあると言います。イギリスは格差社会がすごいという印象を抱いていましたが、「学び」特に芸術分野においては平等であるということも驚きました。またロンドンを含めカンタベリーにはいくつかの本屋さんそして古本屋が多くあり、本を探していると店員さんや現地の方々から声をかけられることが多々あります。そして芸術関連の本を探していると伝え、この本がいいよ、ここの美術館に行ってみなさい、などとたくさんのアドバイスを頂けます。カンタベリーは歴史的な建造物(カンタベリー大聖堂など)が多くあるので、映画の世界に入り込んだかのような自然の多い素晴らしい街並みを簡単に堪能することもできます。イギリス人と芸術の距離の近さを肌身で感じることができて、私の目的も果たすことができました。

三週間という短期間の研修ではありますが私の中で得られたものの大きさは計り知れません。また機会があればイギリス、カンタベリーに足を運びたいと感じました。

